

人と人がつながり 幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～



企画総務部総合政策課

第2回あさご未来会議のプログラムの流れ

ステップ 1

- ・ オープニング
- ・ ファシリテーター紹介、話題提供

ステップ 2

- ・ グループ対話
- ・ ギャラリーウォーク、ふりかえり対話

ステップ 3

- ・ クロージング
（あいさつ、今後の流れなど）



グループ対話の流れ

Step 1

学校・職場・地域などで、いいなと思っているところ、残念に思うところについて、「あさごオンライン未来会議」「若者を対象とした対話」で出された意見も参考にしながら話しましょう。

Step 2

Step 1 を踏まえ、グループ内で、若い世代・子育て世代が住み続けたいと思ってもらうために、私たちの幸せな暮らしとともに「まちがどうあったらよいのか」話しましょう。

グループ対話でのお願い

一緒にみんなで対話しやすい場を作ろう



- ✓ **発言はゆっくりでも大丈夫！**
・・・誰もが発言しやすいように。
- ✓ **市外の皆さんとも朝来市の未来を考えよう**
・・・私たちが気付いていない市外から見える朝来市を教えていただき、参加者全員で朝来市の未来について考えましょう。
- ✓ **子どもたちと一緒にみよう！**
・・・この子どもたちが大きくなった時に誇れる朝来市づくりとなる対話の場に。
- ✓ **市職員も一緒に学ぶ場に**
・・・採用1年目・2年目の職員が参加しています。

人と人がつながり 幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～



企画総務部総合政策課

- 1. 朝来市における人口政策の変遷（第2次総合計画以降）**
- 2. 第3次朝来市総合計画における人口指標の考え方**
- 3. 人口指標の現状**
- 4. 朝来市は消滅可能性都市？**
- 5. 若年女性人口の減少の状況と20、30年後への影響**
- 6. 第1回あさご未来会議の振り返り、オンライン意見の共有**

1 .朝来市における人口政策の変遷 (第2次総合計画以降)



1.朝来市における人口政策の変遷（第2次総合計画以降）

朝来市のまちづくりの歩み

■第1次朝来市総合計画（平成19年度～平成28年度）

人と緑 心ふれあう 交流のまち 朝来市

- 合併によるスケールメリットを活かしながら、一体感あるまちづくり
- 地域協働・地域自治システムの構築による**市民自治のまちづくり**

■朝来市自治基本条例の制定（平成21年度）

- **市民が主体**となった**市民自治のまちづくり**を確立
- まちづくりの基本原則：「参画と協働」「情報の共有」「自律と共助」

人口減少問題への対処の必要性

■第2次朝来市総合計画（平成26年度～令和3年度）

あなたが好きなまち・朝来市

- 人口政策を最重要課題と位置づけ
- 人口が少なくなっても**市民が幸せに暮らしていけるよう地域力**の維持・向上

■朝来市創生総合戦略（平成27年度～）

- 一人ひとりが大切な存在
「ひと」が朝来市創生の基盤
- **「対話」と「協働」**を大切にしながら取り組む

2.第3次朝来市総合計画における 人口指標の考え方



2.第3次朝来市総合計画における人口指標の考え方

■第2次朝来市総合計画後期基本計画策定時の人口推計

	基準 国調	2015 (H27)	2020 (R2)	2030 (R12)	2050 (R32)
後期基本計画策定時推計 (独自推計)	H27	30,805人	28,301人	24,690人	17,268人

■第2次朝来市総合計画後期基本計画策定時の人口指標と重要視したこと

- 1 15歳－49歳の社会減少率
5年で10%抑制

2 25歳－29歳の回帰率（回復率）
回帰率10% ↑

3 19歳－44歳女性の出生率
出生率10% ↑

4 65歳－90歳の生残率
生残率1% ↑



21世紀の中頃
20,000人



考え方を
引き継ぐ

■第3次朝来市総合計画で設定した人口目標

2015 (H27)	2021 (R3)	2029 (R11)	2050 (R32)
30,805人	28,500人	26,300人	20,000人

3.人口指標の現状



人口指標の現状

■将来推計人口 過去の推計値と直近推計値の比較（抜粋）

推計内容	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和32年 (2050)
第3次朝来市総合計画で設定した人口推計 社会移動率10% ↑ 出生率10% ↑ ※第2次朝来市総合計画後期基本計画、第3次朝来市総合 計画策定時の人口目標設定根拠	30,805人	28,784人	20,005人
独自推計① 社会移動率10% ↑ 出生率10% ↑ 等向上 ※①の考え方に、R2国勢調査を反映したもの	30,805人	28,989人	19,500人 目標値比 ▲500人
社人研推計 (R5.12) ② 標準型	30,805人	28,989人	17,400人 目標値比 ▲2,600人

4.朝来市は消滅可能性自治体？



4/25(木)
神戸

4割超 県内は13市町

有識者會議

(2面に関連記事)

消滅可能性自治体を巡っては、有識者でつくる「日
子化の基調は全く変わって
いない」と強調した。
率は新温泉町が71・8%と

本創成会誌」が14年、若年女性の減り方を基に全国の896自治体を公表。分析手法は異なるが、今回は14年比は改善が見られた格好となる。ただ人口戦略会議副議長の増田寛也・日本郵政社長は外国人住民の増加が主な要因だとして「少

20%未満
 40%未満
 60%未満
 80%未満
 80%以上

として算出・人口総略
 会派の資料から

各都道府県で2020年に比べ50年に20〜30代女性が半以下になる市区町村の割合

一方、西脇市が新たに該当がある場合と、出生と死亡

山（當時は徳山）丹波
（当時、淡路市、稲美、
南あわじ、

（社人研）の地域別将来推
社会保障・人口問題研究所

間性があるとされた自治体
 のうち相生、三木、丹波篠
 今回は厚生労働省の国立
 佐用町(同)などを継続した

率に著しい上昇がみられ、最も高く、多可(70・8%)、

した。20～30代女性の減少

に若年女性半減

(2面に関連記事)

県内では41市町のうち、洲本市や養父市など13市町が

じ、将来的に「消滅の可能性がある」とする報告書を

「人口戦略会議」は24日、全国の40%超を占める74

4割超県内は13

—

自治体
資源

日本当可也

REVIEWS

朝

月

来：

市

「は」

太無

無

くた

な

る。

の

?

⑤ 消滅可能性自治体
有識者によると「日本創成会議」（会長・増田寛也日本郵政社長）が2014年5月に公表した報告書で、独自に定義した。消滅は人口減少に歯止めがからず、自治体運営ができなくなる状態を指す。対象896自治体のリストを公表したことで人口減少対策の機運が高まり、政府は東京・極楽中の是正を目指す。一地方創生を始めた。……

だけの要因しかない仮定した場合の女性減少率を組み合わせた、全国1729自治体を大きく4分類した。内訳は消滅可能性744のほか、100年後も若年女性が多く残る「自立持続可能性自治体」65、人口流入が多いものの出生率が低い「ブラックホール型自治体」25、いずれにも該当しない「その他」805だった。兵庫県内では消滅可能性のほかはいずれもその他に分類された。

必要な対策は分類によって異なる。増田氏は、消滅可能性に多い小規模自治体では、若者らの雇用場の創出する必要があると指摘。ブラックホール型は、働き方の見直しで男性の家事・育児参加を促し、出生率低下に歯止めをかけるよう求めた。

(末永陽子)

4.朝来市は消滅可能性都市？

平成26年5月に日本創生会議は、2010年から2040年までの30年間に若年女性人口が5割以上減少する市区町村を「消滅可能都市」として発表。

→全国1,799自治体のうち、896自治体が該当(※朝来市も消滅可能都市に該当)

令和6年4月に人口戦略会議は、2020年から2050年までの30年間に若年人口が5割以上減少する市区町村を「消滅可能性自治体」として発表。

→全国1,729自治体のうち、744自治体が該当(※朝来市も消滅可能性自治体に該当)

※若年女性人口…20歳～39歳の女性人口

■各市町の若年女性人口の減少率と変化

	若年女性人口減少率		前回との比較
	平成26年5月時点	令和6年4月時点	
朝来市	▼63.5%	▼53.6%	9.9%改善 
養父市	▼58.3%	▼58.1%	0.2%改善 
豊岡市	▼48.8%	▼49.9%	1.1%悪化 
丹波市	▼50.4%	▼48.7%	1.7%改善 
福知山市	▼44.2%	▼28.1%	16.1%改善 

5.若年女性人口の減少の状況と 20、30年後への影響



■各推計ごとの総人口に対する若年人口の割合

推計内容			2050（R32）	
独自推計① ※第3次総合計画 策定時の人口推計 にR2国調を反映 させたもの	総人口		19,523人	
	若年人口	男性	2,896人 14.8%	1,485人 15.3%
		女性		1,411人 14.4%
社人研推計 (R5.12) 標準型②	総人口		17,415人	
	若年人口	男性	2,194人 12.6%	1,153人 13.6%
		女性		1,041人 11.6%

- ◆ 人口政策を最重要課題として取り組んできた成果が出てきている。
- ◆ 総人口、若年人口が減少していることは、朝来市に限ったことではないが・・・
- ◆ 継続して、人口政策に取り組み、若者に選んでいただけるまちをめざす必要がある
- ◆ 若者に住み続けていただかなければ、次の世代はさらに減少することが予測される

6.第1回あさご未来会議の振り返り

オンライン意見の共有



開催趣旨、対話テーマ

開催趣旨

- ◆ 将来像の実現に向け、現状を踏まえた後期基本計画を策定
- ◆ 朝来市が重点的に取り組む内容を明確にするにあたり、軸となる20～30年後も「大切にしたい朝来市の価値」の確認
- ◆ 大切にしたい朝来市の価値や、人口指標の現状を踏まえて、具体的な取り組みについての対話

回	テーマ
第1回	子どもたち、孫たちにもつなぎたい朝来市の良いところ
第2回	若い世代、子育て世代が住み続けたいと思えるまちにするには？



6.第1回あさご未来会議の振り返り、オンライン意見の共有

- ◆ 日時／令和6年10月20日(日) 10時～12時
- ◆ 場所／あさご・ささゆりホール
- ◆ 参加者78名(一般、学生:44名、職員:32名、お子さん:2名)



小山もデビュー

テーマ:子どもたち、孫たちにもつなぎたい朝来市の良いところ

<家族・仲間>

家族と仲間と楽しく
(健康、お酒、集まり)

子ども～高齢者まで
安心して暮らせる

子どもが帰ってこれるまち
(仕事、交通)

<つながり>

若い人も外から来た人も
つながれる

地域のつながり
(話し合える場、交流の場)

関係性・つながり

地域のコミュニティ活動
つながり

<関係性・支援の体制>

後押し、応援
役割がある

自分を気にかけてくれる人がいる
→地域のみんなから
愛されていると感じる
→個性を認め合う

自然環境

自然の豊かさ
のどかさ

親しめる自然、自然・共生
(川遊び、子どもが遊べる)

人と人がつながり 幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～



企画総務部総合政策課